

人が集まる

～僕にとっての日常～

八代研究室
006120070 小佐見 正延

1. はじめに ～僕にとっての日常～

最近の世の中は元気がないと痛感している。テレビでも新聞でもネガティブなニュースばかりで人々も元気がないと思う。しかし、街や道には出会い、発見、喜び、遊び、新鮮、学び、驚きなど楽しい事が溢れている。僕は幼い頃から歩く事が好きだ。中学2年の時から週末や長い休みになると原宿から恵比寿まで友達とお洒落をして歩いた。何となく座ってお洒落な人を眺めていたり、買う気もないのにお店に入ってみたり、時には道沿いの所でいらなくなった物を売っていたり、買っていたりしていた。毎日でもお洒落をして出かけたくなり、何となく気がつくといつもここに来ている街や道、原宿周辺の界限にはそれらを満たす雰囲気がある。お洒落して気分よく歩ける街や道が私は大好きだ。それが僕にとっての日常だ。

2. 敷地界限とその問題

私は、専門インターンシップで中目黒にある環境計画研究所にお世話になった。そこでは主にマンションギャラリーの設計などを行っている。インターン中よく大宮の現場に行った。この現場は、氷川神社の参道沿いの一角である。この参道はさいたま新都心から氷川神社までの約2kmの道のりである。2kmの道には、680本30種類の木がある。そのうち25本が市の天然記念物に指定されている。

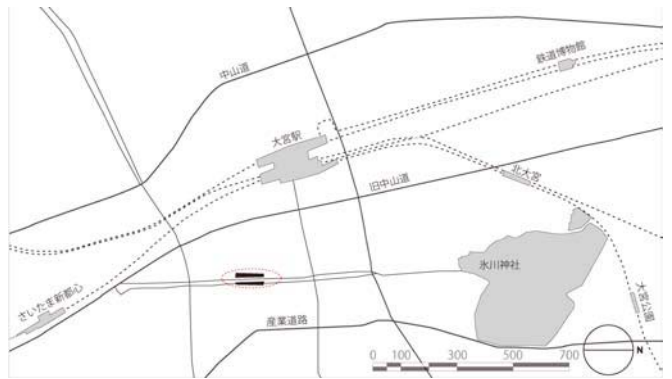


図3 広域図

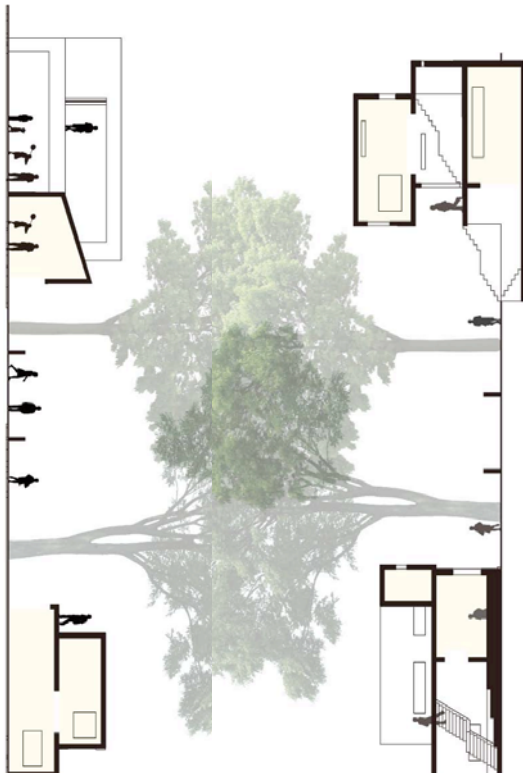
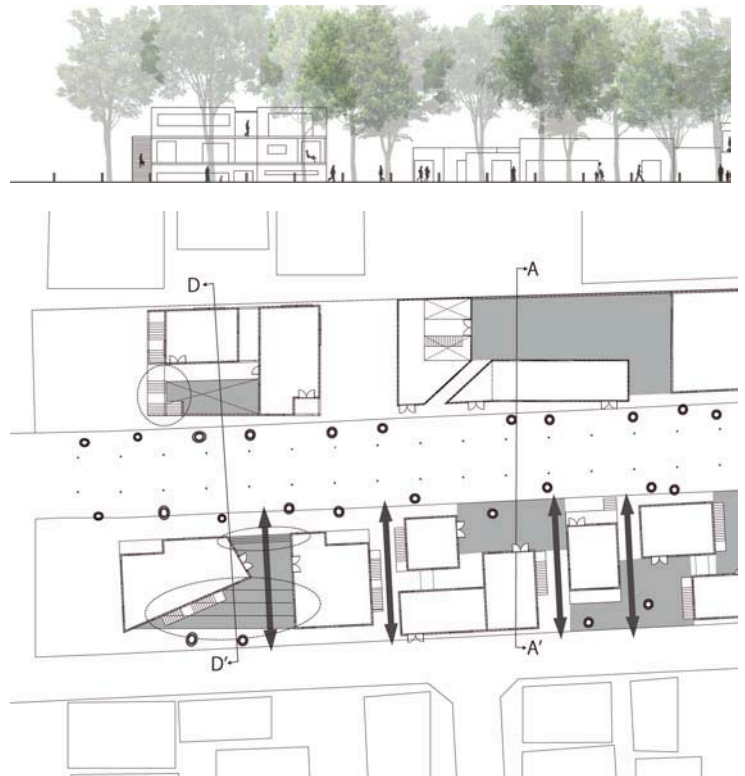


図1 A-A' section

図2 D-D' section



問題 1：この緑豊かな道には人がいっぱい居るが完全に通路化されている。

問題 2：参道の一部では車道が真ん中を独占してる。

問題 3：両脇の木々が道と建物を完全に分断してる。

問題 4：人々が休み、溜ったりするスペースがない。

3. 計画目的

どこにでもあるような道ではなく、参道空間らしさを活かし、個性豊かな道を創造する。そしてこの計画から氷川参道全体が生活路へと変化していく一端を創造する。

4. 計画内容

- ・通路化された道から楽しい生活路へ
- ・どこにもない個性豊かな境界の創造
- ・車の排除
- ・道と建物の関係の改善
- ・ふきだまり、休憩空間の創造
- ・表と裏をなくす
- ・行き来を楽しくする参道空間の創造
- ・中の様子がもれだすような開口部の配置

5. プランについて

建物を敷地ぎっしりに建てるのではなく、幾分セットバックしたり、空白を造る。そうすることで建物と道の間にはふきだまり空間ができる。(図 3plan のグレー部分) 表と裏をなくす。建物を表だけに開くのではなく裏にも開く。そして表と裏を繋ぐ。(図 3plan 矢印部分) 階段、段差を造る。階段や段差は単に上下を繋ぐ動線機能だけではなく、舞台であり、観客席でもあり、出会いの場所でもある。(図 3 点線丸部分)

6. 最後に

僕はこの卒業設計で中学から現在までの楽しい日常を表現した。世の中は便利になり、いつでもどこでも情報や物が手に入る便利な世の中になった。その結果、街のお店はどこにでもある個性のないものになりどこに行っても同じ顔の店ばかりになってきている。電気屋もファーストフードもそんなに必要なのか？どこにでもあるような無個性な店よりその街らしい個性豊かな境界が増えれば、もっと街や道が楽しくなり人が集まると思う。



図 4 east elevation

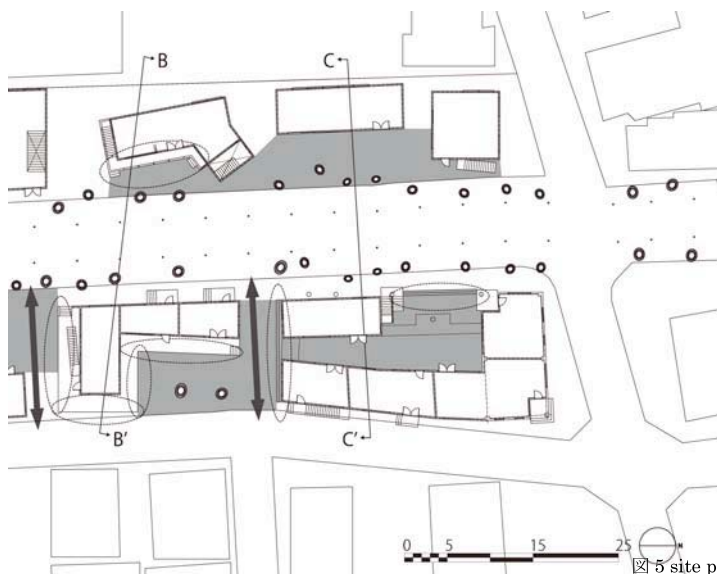


図 5 site plan + plan



図 6 B-B' section

図 7 C-C' section